

今日のトピック 堅調に推移する原油価格（2018年4月） 需給バランスの改善が追い風

ポイント1 引き締まる原油需給 需要増とOPEC協調減産が奏功

- 石油輸出国機構（OPEC）月報の最新号によれば、2017年の原油需要は世界全体で日量9,707万バレル、前年比1.7%増となる一方、供給はOPECおよび非OPEC産油国による協調減産が効を奏して同9,659万バレル、同0.8%増にとどまりました。この結果、17年の需給バランスは、需要超過に転換したもようです。
- 18年は需要が前年比1.7%増の日量9,870万バレル、非OPEC産油国の生産量等が同2.9%増の同6,610万バレル程度と予測されています。従って、OPEC生産量が1～3月期実績の同3,213万バレル前後で推移すれば、需給は引き締まる見込みです。

ポイント2 緩やかに上昇する原油価格 需給好転、中東情勢緊迫化が影響

- 需給好転に加え、中東情勢の緊迫化等により、原油価格はWTIで見て、18年2月初旬の1バレル当たり59ドル台を当面の底に、4月13日の同67.4ドルまで上昇しました。その後も、概ね60ドル後半の水準で推移しています。

今後の展開 注目される対イラン経済制裁解除問題とOPEC総会

- 市場参加者が注目しているのは、5月12日に期限が切れるイランへの経済制裁解除の延長問題です。米トランプ政権は核合意の見直しを求めており、イランが応じない場合、経済制裁が再開される可能性があります。この場合、イランの原油輸出が日量100万バレル程度減少する可能性があり、需給逼迫要因となりえます。

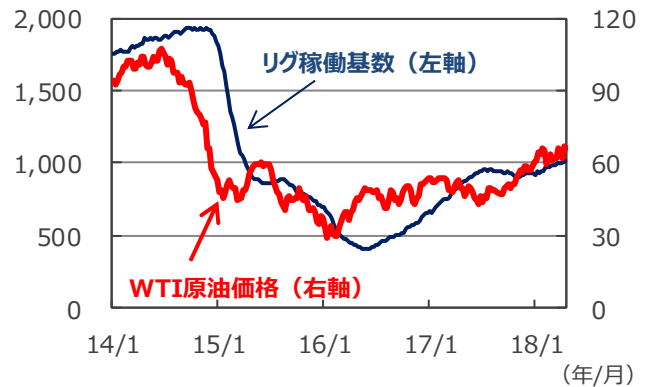
ここもチェック! 2018年2月27日 原油価格の動向（2018年2月）
2018年1月30日 原油価格の動向（2018年1月）

【世界の原油需給見通し】

	2016年	2017年	2018年
世界需要	95.4	97.1	98.7
供給	95.8	96.6	98.7
非OPEC	63.1	64.2	66.1
OPEC	32.6	32.4	32.6
需給バランス	0.4	▲ 0.5	0.0

- (注1) 需給バランス=供給-需要。▲は需要超過。
(注2) 単位は百万バレル（日量）。
(注3) 2017年は実績見込み、2018年はOPECによる予想。但し、2018年のOPEC生産量は、全体の需給が一致するとの仮定のもとでの弊社算出値。
(注4) 四捨五入の関係で、OPEC、非OPEC供給量の合計は必ずしも全体の供給量と一致しません。
(出所) 「OPEC月報」のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【原油価格と北米のリグ稼働基数】(ドル/バレル)



- (注) データは原油価格が2014年1月3日～2018年4月17日（週次）。リグ稼働基数が2014年1月3日～2018年4月13日（週次）。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

- 6月22日には、OPEC総会が開催される予定です。現行の協調減産の見直しと、19年の協調の協議が議題となっています。各国の生産枠を緩めると、供給過剰に陥る恐れがあるだけに、協調減産に関して、どのような結論が下されるのか注目されます。

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。